



知床科学委員会 しんぶん

エゾシカワーキンググループ

NO.25

知床半島におけるエゾシカの管理に関する検討を行うため「エゾシカワーキンググループ」会議が開催されました（第1回：2022年7月4日、第2回：2022年11月30日）。

会議では2022年4月から始まった「第4期知床半島エゾシカ管理計画」の進捗状況が報告され、エゾシカの高密度状態によって発生する生態系への過度な影響を低減するための対策などについて議論しました。

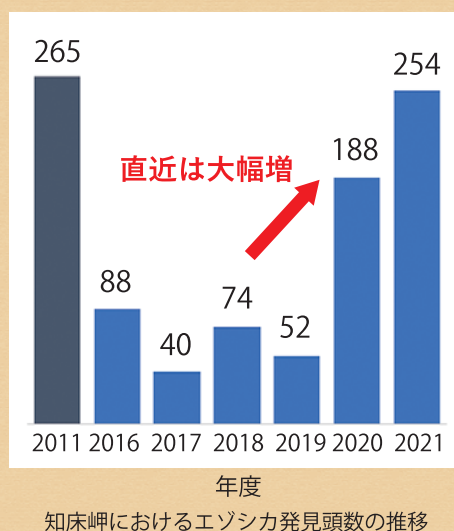
TOPIC 1

知床岬のエゾシカ対策 来春からさらに強化へ

知床岬では2020年以降、越冬するエゾシカの急増が確認されており、植生への影響悪化が懸念されています。

これを受け、関係機関と有識者で構成される「エゾシカワーキンググループ」会議において、知床岬における対策について来春からさらに強める方針を確認しました。

知床岬のエゾシカ対策は4月末頃から着手する予定で、住民や公園利用者に向けて広く周知が図られる予定です。



TOPIC 2

羅臼岳で気象観測を開始



世界的に温暖化などの気候変動が着目されているなか、知床半島のほぼ中央にそびえる主峰「羅臼岳」の山頂部で気象観測の取り組みが始まりました。

この取り組みは、高山植物などの特徴的な植生に変化が確認された場合、それが気候変動による影響か確認するために行われるものです。調査項目は、気温、地温、風、降雨量、日照状況など多岐にわたり、これまで実態が把握されていない高山域のひとつとして今回、羅臼岳が選ばれました。

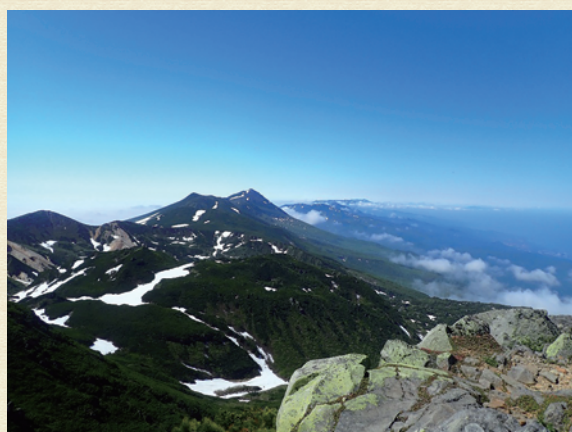
観測結果については、知床半島各地で先行して気象観測を行っている道路管理者や研究機関とも共有を図りながら世界自然遺産の管理に役立てていく予定です。

世界自然遺産の管理計画 改定作業に着手

「知床世界自然遺産地域管理計画」の改定作業に着手しています。

この計画は、知床の世界自然遺産としての価値を保全し後世に引き継いでいくことを目的として、平成二十一年（二〇〇九年）十二月に策定されました。管理計画には、知床の特徴的な自然環境の説明のほか、世界自然遺産としての価値を後世に残すために必要な管理のあり方について書かれています。

策定後十年以上が経過するなかで、書かれている内容の変化や管理を進めるうえで新たに明らかになったことなどに基づき、有識者や地元関係者の意見も踏まえて検討を進めています。



注目！

知床世界自然遺産地域シンポジウム 3月に開催

知床世界自然遺産地域では、遺産管理計画に定められた管理の方策のなかで、遺産地域を科学的知見に基づき順応的に管理していくため、各分野の継続的なモニタリングを実施しています。

2022年にまとめられた第1期長期モニタリング計画（2012～2021年度）の総合評価結果を踏まえ、世界自然遺産地域の現状や今後の管理の方向性等について考えるシンポジウムを開催します。

【イベント内容（予定）】

開催日：2023年3月15日（水）午後

会場：北海道立道民活動センターかでの2・7 大会議室（4F）

その他、参加申し込みの方法など、詳しい内容につきましては決まり次第、環境省釧路自然環境事務所ホームページ（<https://hokkaido.env.go.jp/kushiro/>）などでご案内させていただきます。



会議の内容をさらに詳しく知りたい方はこちら

知床データセンターのアドレスが変わりました
<http://shiretokodata-center.env.go.jp/>

■制作・発行■

環境省釧路自然環境事務所

〒085-8639

北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4 階